



グルメ ~Gourmet~

◆ 神田カレー街

「神田カレー街食べ歩きスタンプラリー2022」の参加店は 125 店舗という、カレーの聖地かつ激戦区である神田神保町。カレー好きにはたまらない街♪

- 📖 神田の名店シェフが教えるカレー&スパイス・レシピ、小説家・逢坂剛、神保町・喫茶ソウセキ文豪カレーの謎解きレシピ、東京人 2014 年 4 月号 特集:咖喱と珈琲
- 📖 東京人 2002 年 10 月号 特集:神田神保町の歩き方 part3、神田カレー街公式ガイドブック 2022

1. 欧風カレーボンディ

神保町がカレー街となった先駆けの店。フランスでソースの奥深さに出会った創業者が生み出したカレーソースは、ブラウンソースをベースにカレーの素材を加えて出来上がったもの。カレーを注文すると、ライスだけでなく熱々のじゃがいも(丸ごと 2 個!)もついてきてボリューム満点!

- 📖 古本食堂、東京人 2014 年 4 月号 特集:咖喱と珈琲、神田カレー街公式ガイドブック 2022

2. マンダラ

第 2 回神田カレーグランプリ 2012 優勝店のマンダラは、神保町で 20 年以上続く有名インドレストラン。地下にある店内は打ちっぱなしの壁にモダンな内装で雰囲気満点、看板メニューの「チキンバターマサラ」はトマトの酸味とカシューナッツのコクが魅力。甘みが強くもっちりふんわりとした大きなナンとの相性も抜群!

- 📖 神田の名店シェフが教えるカレー&スパイス・レシピ、神田カレー街公式ガイドブック 2022

3. エチオピア

老舗のカリーライス専門店。店名は、カレーとコーヒーの専門店だった開店当初、「エチオピアコーヒー」が評判だったことに由来。大人気のカレーは、大量の野菜をじっくり煮込むことで野菜の栄養素や食物繊維がたっぷり溶け込んでいる。また、漢方薬の薬剤としても使われている 12 種類のスパイスは、食後も膨満感なく、スパイス効果で体調が整うといった効果も期待できるよう。

- 📖 神田カレー街公式ガイドブック 2022

4. ビヤホール ランチョン

明治 42(1909)年の誕生当時、「生ビールを飲める洋食屋」はここだけだった。ビヤホールの名がついているが、洋食メニューが充実していて食事だけの利用も気軽にできる。人気メニューのビーフパイは、作家で英文学者の吉田健一の発案によるものとか。

- 📖 古本食堂





5. 茶房きゃんどる

昭和 8(1933)年創業、神保町で最も歴史のある喫茶店。すずらん通り近くで創業し、何度か移転したのち現在は東京パークタワー1F に店を構える。店内は創業時の面影が再現され、落ち着いた雰囲気。

📖 東京古本とコーヒー巡り

6. ミロンガ・ヌオーバ(旧ランボオ)

かつては「ランボオ」という名の喫茶店で、三島由紀夫、遠藤周作、吉行淳之介など今や有名な作家のたまり場となっていた。「ランボオ」は昭和 24(1949)年に閉店。その後はタンゴが流れる喫茶店「ミロンガ(現ミロンガ・ヌオーバ)」として再生した。風情ある店内では、炭火焙煎珈琲や世界のビールを味わうことができる。

📖 神保町タンゴ喫茶劇場、東京古本とコーヒー巡り、
東京人 2002 年 10 月号 特集:神田神保町の歩き方 part3、
東京人 1998 年 06 月号 特集:「神田神保町の歩き方」。

7. 神保町ラドリオ

今年 10 月 3 日に 73 歳の誕生日を迎えた、神保町で長く愛されている老舗喫茶店。ウィナーコーヒー(生クリームがのったコーヒー)を日本で初めて提供したお店として知られる。読書や話に夢中になってもコーヒーが冷めないよう、ホイップクリームでフタをしたのが始まりだそう。

📖 小説家・逢坂剛、カディスの赤い星、東京古本とコーヒー巡り、
東京人 1998 年 06 月号 特集:「神田神保町の歩き方」。

8. さぼうる

レトロな店構えの有名人気喫茶店。珈琲と洋酒が楽しめる「さぼうる」(本店)と食事ができる「さぼうる2」が並んでいる。「2」の方の、山のように盛られて出てくるスパゲティはそのボリュームにびっくりするが、意外と食べられてしまう美味しさ☆

📖 森崎書店の日々、食い意地クン、東京古本とコーヒー巡り、
東京人 2014 年 4 月号 特集:咖喱と珈琲
東京人 1998 年 06 月号 特集:「神田神保町の歩き方」、おさんぽ神保町

9. 揚子江菜館

明治時代から 100 年以上続く上海料理店。冷し中華発祥のお店といわれ、1 年中食べられる「元祖冷し中華(五色涼拌麺)」が人気。「上海炒麺(上海式肉焼きそば)」は作家・池波正太郎の好物だったとのこと。

神保町周辺には日本語学校や留学生会館があったことから、中国人留学生のために数多くの中華料理屋が誕生、そのまま根付いた老舗中華屋が何軒もあり、神保町は実は中華料理店街でもある。


📖 焼き餃子と名画座、古本食堂、神田神保町書肆街考





10. 天鴻餃子房

素材にこだわった、モチモチ皮の餃子が食べられるお店。『焼き餃子と名画座』によると、かつては向かいに映画館があったようで、映画を観終わったあとに餃子と生ビールを楽しめたようだ。現在、神保町には2丁目店、神保町会館店、神田餃子屋本店がある。

 焼き餃子と名画座

11. ろしあ亭

すずらん通りにあるロシア料理のお店。店内はマトリョーシカや民芸品などが置かれており、ロシアに行ったような雰囲気の中で食事を楽しめる。人気メニューは世界3大スープの1つ「ボルシチ」。『古本食堂』に登場するロシア料理店は店名が書かれていないが、このお店と思われる。

 古本食堂

12. 笹巻けぬきすし総本店

創業は元禄15(1702)年、東京最古といわれる寿司屋。長時間保存できるように防腐効果のある笹でお寿司を巻いたことから「笹巻鮓」、魚の小骨を抜いて鮓を作るのを見た旗本たちにより「毛抜鮓」と呼ばれるようになったという。現在も笹に巻く伝統を守り続けている。

 古本食堂

13. 神田まつや

美食家としても名高い池波正太郎が愛した、明治17(1884)年創業の蕎麦屋。『むかしの味』で池波は、「まつや」は何でもうまいと書いている。創業の香りを残した趣ある店内で、伝統ある江戸の蕎麦の味を楽しむことができる。

 散歩のとき何か食べたくなくて、むかしの味

14. 天麩羅はちまき

江戸川乱歩が虜になった天ぷら屋。昭和6(1931)年創業。店の2階では、乱歩、井伏鱒二、吉川英治など名立たる文士が毎月27日に集まる「二七会」が開かれていた。

15. 神田天井屋(旧天井いもや)

『孤独のグルメ』の原作者としても知られる久住昌之さんが絶賛する天井屋。著書の『食い意地クン』でこの天井しか思い浮かばないと言うほど！現在は「神田天井家」に屋号が変わっている。天井を注文すると赤だしの味噌汁がついてくる。

 食い意地クン

16. 竹むら

昭和5(1930)年創業の老舗甘味処。名物「栗ぜんざい」と「揚げまんじゅう」は池波正太郎も好んだ味。昔ながらの情緒溢れる建物は東京都選定歴史的建造物。

 散歩のとき何か食べたくなくて、むかしの味

